

令和五年度

青少年育成春日部市民会議

「少年の主張」作文集



青少年育成春日部市民会議

## はじめに

「少年の主張」作文コンクールは、青少年が日頃考えていること、また、体験したことや感じたことを作文という形で表現することによって、青少年自らが、広い視野に立って物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会としています。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に対する大人の理解を深める契機としています。

市内小・中・義務教育学校に通う児童、生徒を対象に募集を行い、小学生の部から千三百十五編、中学生の部から七百十二編の応募がありました。今年度においては、『平和への思い』や『多様性を認め合う社会』、『将来の夢や希望』など、様々なテーマで深く考察された作文が集まりました。

応募作文の中から入選作品二十四編が選ばれ、その中から、最優秀賞一編、優秀賞五編が決定しました。この作文集は、最優秀賞、優秀賞の計六編をまとめたものです。青少年が心に抱く様々な主張を、多くの方にご一読いただければ幸いです。

## 目次

### ○ 少年の主張作文〈最優秀賞〉

私の夢ができるまで

春日部市立武里中学校

二年

相澤 心花

1

### ○ 少年の主張作文〈優秀賞〉

人生の先輩

春日部市立武里小学校

六年

庭月 希実

4

祖母のはなし

春日部市立正善小学校

六年

谷本 尚

6

最初の一步

春日部市立立野小学校

六年

小河原 結花

8

優しい心の形

春日部市立武里南小学校

六年

田中 まり奈

10

私のしあわせは、私のこころがきめる

春日部市立川辺小学校

六年

石川 咲希

13

### ○ 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

16

## 少年の主張作文〈最優秀賞〉

私の夢ができるまで

春日部市立武里中学校 二年 相澤 心花

「元気に産んであげられなくてごめんね。たくさん辛い思いをさせてごめんね。」  
八歳の私に母は何回も、こう謝りました。

みなさんは、総胆管拡張症という病気を知っていますか。総胆管拡張症とは、胆汁への通り道となる総胆管が全体的に、あるいは部分的に拡張する病気のことです。私は二歳の頃、この病気にかかりました。ある日、急な腹痛や嘔吐に襲われた私。母も最初は様子を見ていましたが、痛みが十分以上も続いたので急いで近くの病院まで行くと、ここでは検査できないからと言われ、市立病院まで運ばれました。そこで私は、総胆管拡張症と診断されました。その日から、私の病院生活が始まりました。感染対策のため、病棟には親のみしか入れませんでした。そのため、姉や祖父母とは外からしか顔を合わせるできませんでした。母は看護師なので、慣れた手付きで私の着替えをしてくれました。そのため、病院の看護師さんから「お母さん、凄く手馴れてますね。もしかして、看護師さんですか。」とよく聞かれていたのを覚えています。

母が病室にいてくれる、それが私の唯一の幸せな時間でした。でも、母も姉達の面倒も見なくてはならないので、そう長くは病室にいてくれません。二歳の私からしたら、家族と少し離れただけでも寂しいのに、一日の半分以上もベッドの上で過ごすなんて地獄のような日々でした。私は毎日、母が帰るとなると「まだ帰らないで。」と泣き叫んでいました。それを見て母も泣く、それが毎日のルーティンでした。

母は、私が病気になったのは自分のせいだと思っていたようです。それは、小学校二年生の頃「母から子に手紙を送る」という授業参観の時に、母からもらった手紙で知りました。その手紙には「体のあちこちにあるチューブを見た時、元気に産んであげられなくてごめんね。私が代わってあげたいといつも思っていたよ。」と書いてありました。私は「誰のせいでもないよ。」と手紙を読んだあと、母に言いました。

私は今、学校や習い事、そして部活などを頑張っています。それは、元々母が私を産んでくれたからなのと、手術を成功させてくれたお医者さんのおかげでもあると思います。また、私は看護師さんにも感謝しています。母が病院から帰ったあと、母の代わりをしてくれたのは看護師さんだからです。私は、手術前が特に不安でした。「これが失敗したらもう二度と家族に会えなくなる。」と思うと、不安でいっぱい逆で逆に家族の顔を見ていられなくなりました。でも、看護師さんの「大丈夫、一緒に頑張ろうね。」という優しい言葉に私は救われました。その後、無事手術は成功し、制限されていた食事からも解放され、少しずつですが元の日常へ戻ることができました。

この経験を通して、私は今、不安や悩みを抱えている子供の助けになる仕事がしたいと思っています。

ます。看護師は、何か発作が起きた時、最近のその子の行動や食事などから原因を予測することができるため、観察力がとても大事になってきます。そこで私は、今「部活のメンバーの誰よりも周りを見て行動し、気遣いをする。」ということを目標に頑張っています。

今となつては、顔も名前も忘れてしまった看護師さん。でも確実に、私に勇気を与えてくれた、夢を与えてくれた看護師さん。そんな人に私もなりたいと思い、私は今、小児科の看護師を目指しています。

## 少年の主張作文〈優秀賞〉

人生の先輩

春日部市立武里小学校 六年 庭月 希美

私の母は、訪問美容の仕事をしています。訪問美容は、介護施設や個人宅（自力で理美容院に行けない人）の髪を切りに行く仕事です。私の母は、仕事で出会ったお年寄りの話をたくさんしてくれます。

私の髪も、母が切ってくれます。髪を切ってくれた時は

「ありがとう。」と言っています。その時、お年寄りには私たちより言葉の選び方や伝え方がとても上手だと母が教えてくれました。どういふことか聞いてみると、お年寄りは「ありがとう。」だけでなく、「あなたに切ってもらえてとてもうれしいわ。ありがとう。」など、ありがとうにプラス一言があるそうです。同じ感謝の意味の言葉でも、たった一言だけでこんなにも印象が変わるのかと思いました。言葉はとても不思議です。

お年寄りの中には百歳を超えている人もいて、戦争のことを話してくれる人もいます。私は、あまり戦争のことを知りません。母の話を聞くと、おじいさんは、

「あと二日終戦が遅かったら、特攻隊で出撃していた。」と言っていたそうです。記憶だと空しゅう警報が鳴っていたことや、空が真っ赤だったこと、一日防空ごうで過ごしたことを言う人もいれ

ば、生きることに精一杯で覚えていないという人もいるそうです。今は、戦争が終わって平和な毎日を過ごしているけれど、戦争前や戦争中はそんなことがあったのかと思うと、命の大切さをとて感じます。お年寄りの方々には、今の生活でたくさん幸せだと思つてほしいと思いました。

子どもは親に世話をしてもらつて大きくなります。反対に親も年を取ると、自分でできなくなるが多くなります。そのことで子ども世代に色々世話をしてもらつていることに申し訳なさを感じている人がたくさんいるそうです。母がお年寄りの方に、

「私は娘がいるので、親の立場であると同時に両親の介護をする子の立場です。両方の立場になつて分かりましたが、子に親孝行させるのも親の務めだと思ひます。」と言つと、

「今は子どもに少し甘えさせてもらおうかな。」と言つていたそうです。いつか自分も通る道だから優しい気持ちや思いやりの気持ちを持つことが大切だ、と母は私に教えてくれました。

訪問美容では、お年寄りに色々なことを教わつていふと言つていました。お年寄りは私達よりも長く生きていて、その分多く私達よりも経験を積んでいふのだと思うと、「人生の先輩」だと思ひました。だから、私はこれからお年寄りを大切にしていきたいです。そして、たくさんの方を学んでいきたいと思ひます。



祖母のはなし

春日部市立正善小学校 六年 谷本 尚

「空が真っ赤になった。」祖母が話してくれました。日本が戦争で原ばくを落とされた時、祖母は僕と同じ小学生でした。戦争中は食べ物少なく、貧しい生活をしていました。物々交かんで米をもらい、祖母のお母さんがおかゆにしたり、いもを入れて量を増やしたりして食べていたそうです。今はスーパーで食品が買えるのに、何かと交かんと食べ物がもらえない事におどろきました。学校の授業も今とは違い、勉強よりも戦争の授業をしていたそうです。祖母は教えてくれた兵隊さんが少し怖く感じたと話していました。祖母が学校にいた時、空しゅう警報が出ると防空頭巾をかぶり、みんなで校庭に出たそうです。家にいる時に空しゅう警報が出た時は、庭に作った防空ごうにかくれたそうです。庭の防空ごうはスコップなどで作ったため、家族六人がぎりぎり入れる小さな防空ごうだったそうです。いつ出るか分からない空しゅう警報の中の生活はとても不安だったと思います。僕だったら怖くて泣き出してしまいます。でも戦争中の子供達は言いたい事も言えず、泣きたいのがまんして、自由に遊ぶ事も出来ず、勉強も好きな授業も受けられず、たくさんがまんをしていたと思います。今の僕には、想像が出来ません。戦争中の男の人は、ある程度の年れいになると半強制的に出兵させられたそうです。戦争に行く行かないを、自分で決める権利がなく、光榮な事だと思わなければいけません。祖母のおじさんも出兵したそうです。おじさんに召集令状が届いた時に「おめでとございます。」と言われたそうです。家族や祖母のおじ

さんは、悲しい思いをしているのにどうしてそんな事を言うのだろうと僕は、思いました。祖母のおじさんは、心の中で泣いていたと思います。

人が人として生きる自由をあたえられない戦争は、絶対やってはいけません。今では、当たり前になっていてる発言する自由や生きる権利が、数十年前の日本は当たり前ではありませんでした。今、普通に生活している事がとても幸せに感じます。外国では、今も戦争をしている国があります。多くの人々が家を失い、苦しい生活をしています。亡くなってしまった人も大勢います。子供達は、学校にも行けず友達とも遊べないと思います。人々が、信らいいし助け合えば戦争は起こらず平和に暮らせると思います。なので困っている人がいたら思いやりの気持ちを持って、助けられる人間になりたいです。そして、世界中の人々が自由に生きる権利を持てる日が早く来る事を心から願っています。

## 最初の一步

春日部市立立野小学校 六年 小河原 結花

私は最近、日本国憲法で定められている「基本的人権の尊重」について学習しました。その学習で、障害を持つている人々やお年寄りなど、様々な人々について考えを深め、その人々の人権を守るために、色々な取り組みをしていることを知ることができました。最近の社会は、様々な人々が暮らし易いようなものになってきていると思います。

しかし、まだ私の知る中では、障害者やお年寄りなどに対する「差別」が、まだ残っているような気がします。体の不自由な人々だけではなく、「みんなが当たり前でできていることができないから。」や、「普通じゃないから。」など、他の人とは違う人達も差別されているように感じられます。でも、「当たり前」や「普通」とは一体何なのでしょう。障害を持つている人にはその人の「当たり前」や「普通」があり、他の人とは違う人もその人の「当たり前」や「普通」があると思います。「あの人は普通じゃない。」と言っている人の「普通」と、言われている人の「普通」は全然違うのではないかと私は考えています。

私が少し前に見たテレビの番組には、学校でなやみを持つ人が、夢の世界で、相手と話し合いながらそのなやみの解決策を見つけていく、というものがありました。その番組を見ると、その人の立場になって「自分ならどのように考え、どのような行動をするのだろうか。」と毎回考えさせられます。特に大切なことは、「相手と自分の考え方は違う。」ということを入れておくことだと

思っています。

最近、周りの人も「一人ひとりとは違っていい。」と自覚することができていると私は思います。でも、私も他の人に対して、「あの子はなんか変だな」と心の片すみで思ってしまったことが学校生活でも時々あります。また、家族で出かけた先で、「あの子は、周りの人たちよりも背が大人分低いな。もしかしたら、私よりも低いかもしれない。大人なのに、なんかおかしいな。」と思うこともあります。

私には今年で中三になった姉がいます。姉は、私と背たけも顔もそっくりで、友達や知り合いの方によく双子だと言われています。この前、身体測定をした時に、私の方が姉よりも〇・六センチ程身長が高いことが分かりました。姉は「絶対にそんなはずはない。」と言っていて、私には少しシヨックを受けていたように見えました。三つも年下の妹に身長をぬかされたことをクラスの友達に言われたら、その人に悪気が無くても、シヨックを受けてしまうかもしれないと思いました。今考えると、外出した時に見かけた人も、そんな経験をしてきたのかもしれないと思いました。

私はこれまで、周りの人と同じであることが「普通」なのだと思っていました。しかし人それぞれ「普通」は違うと思ひ直しました。私は、出身地も人種も、性別も分けへだてなく、いっしょに仲むつまじく生活していける、平等な社会にしたいです。そのためには「最初の一步」を勇氣を出してふみ出してみることが大切だと思います。なので、私は日常生活から、周りとは少し違う人たちにも、分けへだてなく親切に接し、より良い社会を目指していきたいです。

## 優しい「心」の形

春日部市立武里南小学校 六年 田中 まり奈

「あなたの心はどんな形ですか」

道徳の時間、私はこの一文から始まる詩と出会った。宮澤章二さんの「行為の意味」という詩だ。私の心はどこにあるのだろう。どんな形をしているのだろう。考えてもどう答えたら正解なのかわからない。だれにも「心」は見えないのだ。しかし、宮澤章二さんは言う。「心は見えないけれど、『心づかい』は見えるのだ。」と。だれかを思い、「何かしてあげたい」と行動するその行為は、「心づかい」となり、相手に届けることができる。私は、周りの人に優しさを届けられる人になりたい。私は五年生の時に足をねんざして、二週間ほど松葉杖で生活した。初めて経験したこの松葉杖生活は、想像していた以上に大変だった。しかし、たくさんの人の「心づかい」に支えられていることに改めて気付くことができた。松葉杖の私は、自分で学校に歩いて行くことができなかった。そのため、毎朝父や母が車で送りむかえをしてくれた。むかえの時間が遅い時は、図書室で待っていたこともあった。そんな時は、先生がそばにいつしよにいてくれて、楽しい話をたくさんしてくれる。三階にある教室まで行くのは、本当に大変なことだった。一人で上がることができず困っていると、必ず周りの友達が声をかけてくれた。

「ランドセル持つよ。」

「大丈夫？いつしよに教室へ行こう。」

その言葉にどれだけはげまされ、不安でいる私を助けてくれたか分からない。他にも、給食を持ってきてくれたり、片付けをしてくれたり、移動教室の時は、いつもすぐに友達が来てくれて、たくさんの手伝ってくれた。松葉杖での生活になることを知った時は、不安なことがたくさんあり、学校に行きたくない気持ちでいっぱいだったが、たくさんの人に助けてもらい、毎日楽しく学校に通うことができた。自由に体が動かないのは、不便なことでもたくさんあった。しかし、この経験は私に二つの大切なことを教えてくれた。一つは、助け合うことの大切さだ。人は支えられて生きていくということを学んだ。もう一つは、思いやりの「心」は、言葉や行動となり、人に伝えることができるのだということだ。困っている私をあの時、たくさんの人が助けてくれた。みんなに支えてもらえることのありがたさや、優しい気持ちを知ることができたのだ。助けてくれたみんなに、今でもすごく感謝している。

当たり前前にできていたことが、当たり前でなくなったり、初めて見えた、たくさんの方の「心づかい」。そのおかげで、「不便」だと思ったりはあったけれど、あの時の自分を「不幸」だと思ったりは一度もない。そして、人を大切に思うだけでは、その思いを伝えることはできない。何かしてあげたいと思う心があっても、行動しなければその心は伝わらない。しかし、その「思い」を言葉にし、その「心」を行動に移すことができれば、私が感じたのと同じように、しっかりと優しさを届けることはできるのだと思う。

たくさんの方が私の不安だった心を救ってくれたように、私も困っている人がいたら、「助けたい。」と思うだけでなく、何ができるか考え、行動できる人になりたい。学校だけがをしている人

がいたら肩を貸したり、横断歩道を渡れず困っている人がいたら荷物を持ってあげたり、その人の支えになりたい。目の不自由な人が困っていたら、「青ですよ。」と声をかけたり、電車の席をゆずったりしたい。考えれば私にもできることがたくさんある。私がみんなに優しさをもらい、その優しさを今度は、他のだれかにあげられる人になりたいと思ったのと同じように、温かい「心づかい」は、人から人へと広がっていくのだと思う。「その輪が世界中に広がりますように。」と願い、私は今、自分にできることから行動していきたい。

「あなたの心はどんな形ですか」

きつと、人を思う優しい「心」は伝わるのだ。

私のしあわせは 私のこころがきめる

春日部市立川辺小学校 六年 石川 咲希

「しあわせは いつも じぶんのこころがきめる」これは詩人相田みつをさんの言葉です。家族で買い物に行った時に、売場に展示されていた日めくりカレンダーにのっているのを見つけました。この言葉を見つけた時、確かにと思いました。ふだん母から言われている言葉と重なる部分があったからです。そして自分の生活の中にも思い当たることがありました。みなさんの幸せは何ですか。

私の今の幸せは大好きなバレエを踊ることです。五年生からは一つ上のレベルのトゥシューズを履いてのレッスンも始まっています。トゥシューズを履いて踊ると足にまめができたり、まめがつぶれてタイツが血だらけになったりします。とても痛いです。とてもしんどいです。でもその分とっても楽しいです。踊っている時の私は間違いなく幸せ。なぜなら痛みや苦しみを乗り越えた先に上手に踊れる自分がいるからです。舞台で見るあこがれのお姉さん達に近付けるからです。バレエの発表会などお客様を前にした本番は本当に楽しすぎて笑いが止まらなくなることもあるくらいです。自分が楽しいと感じている限り私にとってバレエは幸せのかたまりであり、決して辛いものなどではありません。

そんな私が今、辛い、しんどいと感じているものがあります。それは算数です。私は、算数が大の苦手で、テストの点も思うように取れず、この世から算数というものが消えて無くなつてしまえばいいと思うほどです。ですが、これをゲームのように楽しんだらどうでしょう。例えば、面どう



な計算練習や頭がごちゃごちゃになる公式の数々は、その一つ一つが自分を強くするアイテム。ステージをクリアするたびに、当然敵も強くなっています。一筋縄では解けない最も苦手な図形問題は私にとってはラスボスです。これまで手に入れたアイテムと戦術を駆使して全力で倒しに行きます。正解すれば私の勝ち。不正解なら相手の方が一枚上手ということでも足りなかったアイテムを揃えに行く。こんな風に考えれば、大の苦手である算数ですら私に楽しさと幸せをもたらすものとなってくれるのではないのでしょうか。こつは、辛いことを乗り越えた後の自分を想像すること。なんでもそうです。仮に社会の勉強が苦手な人がいたとします。その人は特に地理の分野が苦手です。地図記号を覚えることがきらいだったり、都道府県の色々な特色を覚えることがきらいだったりします。でも、地図記号を覚えた時を想像してみてください。その人はきつと地図がすぐく読めるようになっていくはずですよ。では都道府県の特徴を覚えることのできた時も想像してみてください。ニュースでやっている魚の生産量だったり、野菜の生産量だったり、特色を覚えたことによつてニュースの内容がより分かつて頭の中に入っていくはずですよ。そうすることでより多くの幸せを得られるはずですよ。

このように、自分の幸せはいつも自分の心が決めるものです。自分の身に起こる様々なことがらをだれかのせいに行っているうちは、きつと幸せなんかにはなれません。これまでの私もそうです。身の回りに起こることがらをいつも他人のせいにしてにげ続けていました。でも相田みつをさんの言葉や母の言葉を見たり聞いたりした時それは間違いだったのだと気が付きました。もしみなさんが私と同じようなことをしているのならば人生を損しているかもしれません。私はこれから先の長

い人生、どんなことでも楽しんでみようと思っ  
ています。少し先の自分を思い描きながら辛  
いことでも面白がってやってみよう、と。私の  
人生は私のものです。私の幸せは私の心  
が決めます。私は今、とっても幸せです。

## 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

### 平成八年度

- ・春日部市青少年健全育成推進会議設立（七月二十七日）
- ・かすかべ郷土かるた大会を推進会議と教育委員会との共催で実施（十二月十五日）
- ・捨て看板等の違法広告物撤去作業スタート（十二月二十日／平成十七年度まで毎年実施）

### 平成九年度

- ・ふれあい広場での非行防止啓発活動スタート（十一月二日）
- ・冊子「たいせつな家庭」作成・配布（平成十六年度まで毎年作成・配布）

### 平成十一年度

- ・市内幼稚園・保育園・保育所の園長・所長を交えて「家庭教育座談会」を実施（九月二十二日／平成十六年度まで毎年実施）

### 平成十四年度

- ・春日部市青少年健全育成基本条例施行（四月一日）
- ・第十回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月二十四日）

### 平成十六年度

- ・「青少年育成春日部市民会議」に名称を変更（四月一日）

## 平成十八年度

・第十四回かすかべ郷土かるた大会より、小学生の部、中学生の部に分けてトーナメント戦を実施（十一月十九日）

・青少年育成春日部市民会議設立十周年記念式典を開催（十二月十四日）

・青少年育成埼玉県民会議青少年育成成功労賞受賞

## 平成二十一年度

・シラコバト賞受賞（十一月十四日）

## 平成二十二年度

・第十八回かすかべ郷土かるた大会より、一部改定した新かるたを使用（十一月十四日）

・青少年関係団体連携活動講演会を開催し、ノーベル化学賞受賞者 白川英樹筑波大学名誉教授を講師に迎えた（一月二十三日）

## 平成二十三年度

・第二十回記念かすかべ郷土かるた大会より、ファミリーの部を創設（十一月十一日）

## 平成二十五年度

・市民会議ロゴマークを制定

・環境浄化活動講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として俳優 藤岡弘、氏を迎えた（十月二日）

## 平成二十六年度

・家庭教育講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として直木賞受賞作家 志茂田景樹氏を迎えた（二月十三日）

#### 平成二十八年度

・市民会議設立二十周年記念 青少年健全育成標語を募集

#### 令和元年度

・青少年健全育成講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として元F C東京社長、東京ガスケミカル株式会社常務取締役 阿久根謙司氏を迎えた（一月三十一日）

#### 令和二年度

・新型コロナウイルス感染症の影響により、第二十八回かすかべ郷土かるた大会を中止

#### 令和三年度

・環境浄化活動講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を、オンラインによる限定配信で開催し、講師として特非ASK 認定依存症予防教育アドバイザー 三森 みさ氏を迎えた（二月二十日）

#### 令和四年度

・第三十回かすかべ郷土かるた大会を三年ぶりに開催（十一月六日）  
・青少年健全育成講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を会場及びオンラインによる限定配信で開催し、違法・有害情報相談センター長 石原 友信氏を迎えた（二月二十日）

#### 令和五年度

- ・第三十一回かすかべ郷土かるた大会を開催（十一月二十六日）
- ・家庭教育講演会（活躍する青少年の表彰及び講演）を開催し、特定非営利活動法人子どもと文化のNPO Art.31 大屋 寿朗氏を迎えた（二月四日）

令和六年一月発行

編集・発行

青少年育成春日部市民会議